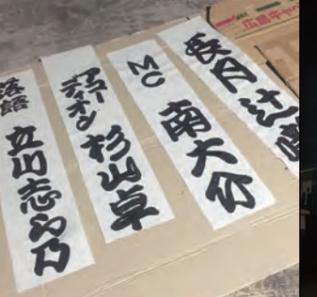
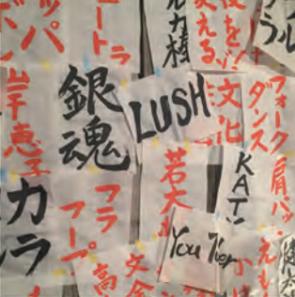
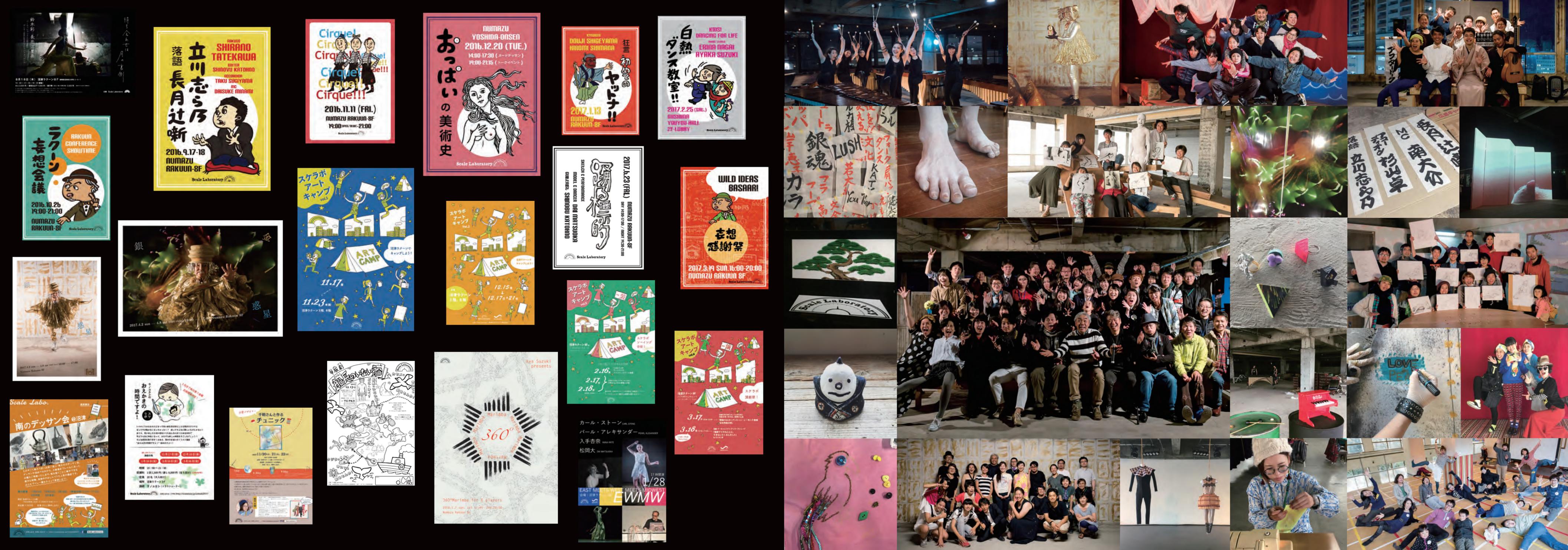


SEASON
2016-2018

Scale Laboratory

kyoko-inn.com
京橋イン







Scale Laboratory（スケラボ）は、伊豆を拠点に「ひとりでも多くの人々が、生活と地続きに無理なく芸術を楽しめるローカル」を目指し、役目を終えた施設や、使われていない場所などに一時的に活動の場（＝舞台）を作り上げ、様々な芸術に関わる企画を行っています。

本冊子は、これまでに一時的な公演や講座の会場としてきた場所を、沼津・三島・熱海・湯河原と地域ごとに紹介しながら、スケラボが発足した2016年2月から2018年3月までの活動を記録したものです。

Scale Laboratory は2016年2月14日に発足しました。

きっかけは自宅で始まった小さなデッサン会でした。
2月13日のデッサン会の翌日の朝に、団体の名前が浮かびました。
（Scale → 測り・尺度 Laboratory → 実験室）
そして、分度器と測りの中間のようなロゴが決まりました。
可愛いキャラクターもできました。

静物をじっくり描いていたその会はやがて
舞踏家をモデルとしたクロッキー会も開催するようになり
いつしか家を飛び出して
遊休地やカフェで、パフォーマンスアートを上演するようになっていました。
活動を続けていくと仲間が増え、パフォーマンスの規模も次第に大きくなりました。
座学やワークショップも始め、様々な方と知り合うことができました。

パフォーマンスアートとは、原則として
パフォーマーがそこにいて生で見えて成り立つ作品をいいます。
「直接会って作品と対話すること」を Scale Laboratory は大事にしてきました。

この冊子は我々の多種多様な「対話」の成果をまとめたものです。
今まさに目の前の文章を読んでいる方々は
この後のページに書かれている内容も見ただけの方々のはずです。
どうか、隅々までよくご覧ください。
写真1枚1枚、文章の一言一言に
その時の記憶や感情や繋がりが詰まっています。

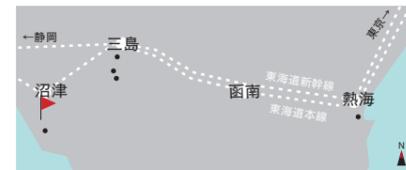
我々はこれからも
変化も、伝統も、問題も、希望も、矛盾も、怒りも、悲しみも、喜びも、楽しみも
全てを素材とし、フラスコの中に投入し、化学変化を起こしながら進んでいきます。
そして、様々な場所で皆様と「対話」できることを楽しみにしております。

Scale Laboratory 代表 川上大二郎

1 元老舗百貨店の展望フロアをアートで演出

沼津ラクーン

静岡県沼津市大手町 3-4-1



2013年に55年にわたる営業に幕を閉じた沼津駅前の元西武百貨店。現在は総合アミューズメント施設として運営されている。食堂街であった最上階の8階は、現在壁が剥がされ、空調も照明もないスケルトン空間だが、沼津の街が美しく見渡せる独特の雰囲気を持っている。2016年、スケラボは使われていなかったこの8階に、ゼロから舞台を作り上げ、新たな価値を見出した。



外観



8階



初めてのヤットナ! (狂言ワークショップ&公演)



ラクーン妄想会議 (公開企画プレゼン大会)



スケラボアートキャンプ



TC アルプ 甲板劇「船長のいない船」



EAST MEETS WEST MEETS MIDWEST (即興音楽&パフォーマンス)



「金・銀・惑星」



創作劇「幕が上がらない、その後」



「待ち合わせは月の裏側 vol.2」

アートで可能性を掘り起こす。スケラボさんの一連のプロジェクトには、そんな胎動を感じます。初参加はラクーン妄想会議でした。ご挨拶の3日後に登壇者となりましたが、面白い場所に、面白い人が集まり、面白いことが発露する、その現場にただ胸躍りました。「俺たちのジモトで唯一無二のアートが生まれているぜ!」と、声を掛けた学生何人かは実際にスケラボを体験。アートの言語化を試みるその様は、学校には決して出来ぬ「教育」そのものでした。妄想感謝祭では、スケラボに刺激を受けた学生(とシニア)の演劇公演を行い、学生(と僕)にとって最高のフィードバックになりました。混沌と豊かさに満ち満ちた妄想→創造→発信、フロム・ジモト。それこそが、希望です。

加藤剛史(かとう・たけし) 静岡東部の演劇人

(ラクーン妄想会議登壇者・妄想感謝祭、スケラボアートキャンプ vol.4 で公演)

私の演奏を聴いたことがない大二郎さんに、初めてのパフォーマンスアーツを任せてもらった初回公演「踊る標的」。その時の不安と期待と緊張は、今でもよく覚えている。それから2年経った現在は演目も多岐に渡り、頼もしい仲間も増え、まだまだ賑やかに旅の途中、という感じだ。この先も「ぐっ」と来たものたちを描き、創り、踊り、時には道草をも全力で食べながら、まだ見ぬ場所へ進んで行くのだろう。私も置いてけぼりを食らわぬよう、出会った時に感じた胸騒ぎを携え、一緒に旅を続けたい。

鈴木彩(すずき・あや) パーカッションニスト

(「360° marinmba」企画・奏者。「踊る標的 vol.2」、

「待ち合わせは月の裏側」などに出演)



「踊る標的 vol.3」(舞踏&フラメンコギター)

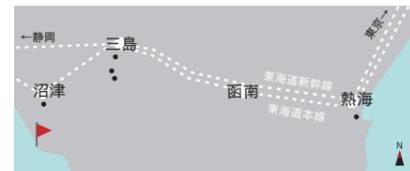


360° marimba for 6 players

2 昭和レトロな銭湯で「ヌード」がテーマの美術講座

旧吉田温泉

静岡県沼津市吉田町 2-16



吉田温泉は、沼津最後の銭湯として長年市民に愛されてきたが、惜しまれつつも2016年6月より休業中である（2018年3月現在）。1949年建築という建物の中は、富士山のタイル絵、円形の浴槽、木製のロッカーなど、レトロで厳かな佇まいである。スケラボは、休業中の大浴場を活用し、2016年12月に「おっぱいの美術史」と題したヌードデッサン会とヌードに関する美術史講座を開催した。



外観



大浴場



ヌードデッサン会

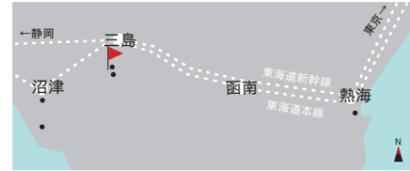


レクチャー「写真が定えたおっぱい」（講師：伴田良輔）

3 公共ホールの「名もなき場所」の使い方を考えてみる

三島市民文化会館 2階スペース

静岡県三島市一番町 20-5



この文化会館の2階スペースには、かつて喫茶店があったそうだ。現在は自動販売機と、申し訳程度にテーブルと椅子がある空きスペースになっている。スケラボは、この「名前のない場所」を利用して、親子向けのダンスワークショップとトークイベント「白熱ダンス教室！」を開催。パフォーマンスには屋外スペースも利用した。

4 身近なカフェの魅力を活かしてアートの小さな種を蒔く

#dilettante cafe and waltz.

静岡県三島市緑町 1-1（地図中㊟）

カフェ・うーるー

静岡県三島市南本町 13-30（地図中㊠）

レストランやカフェの営業時間外を利用し、デッサン会や読書会を定期的に行った。個性ある店舗の内装や美味しいメニューも楽しみながら、魅力的な学びの場を生み出した。



南のデッサン会@ waltz.



「絵解きて美術史」@カフェ・うーるー



三島



「白熱ダンス教室！」



かつて体験したことのない舞台芸術がこの街で繰り広げられた。かつて芸術に無関心であった者さえ、面白い大人たちに感化され、多様な演者、観客、サポーター、そして世情、箱が渦巻きながら作品が生まれ萃点（すいてん）となる。その時その瞬間の共感の渦は時間が経ち、次々に共感の波紋を街に広げていく。波紋はまさしく複雑系で、多様な視点で語られ、これまた不思議。これからさらに沼津の街中で渦巻く萃点を私たちはとことん面白い。

小和田尚子（こわだ・なおこ）母力.Pj 委員長
（裏方作業で沼津での開催を支えてくれる応援団）



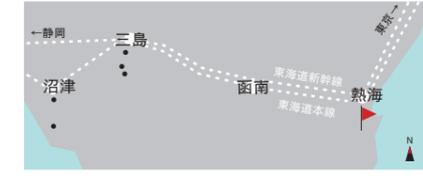
最初にデッサン会の開催を提案していただいた時には、あまりピンとこなかったのを覚えている。デッサン会？でも、集中する皆さんの表情とその空気感がお店に充満してゆくのを見て、良い空間になるんだな、と思った。黙々と絵を描きながら、いつの間にか周り仲間良くなってしまふ、私の好きな食事風景とも似た親密感。クッキー会や、松岡氏による舞踏など、次々と面白い企画を開催していただきました。またワルツでの集まりを期待しています。

四宮浩司（#dilettante cafe 店主）

5 商店街の負の記憶をプラスに変える実験企画

レンタルスペースツイキ

静岡県熱海市銀座町（熱海銀座商店街）



JR 熱海駅から徒歩 15 分。かつては観光客で賑い、熱海を中心街であった熱海銀座商店街は、時代の移り変わりで空き店舗が目立つようになった。しかし、地元の若い力で新しいカフェやゲストハウス、コワーキングスペースも生まれている、熱海の変化の象徴のような場所だ。スケラボは、この商店街の一角にある、火事によって何もなくなってしまった元洋品店の「廃墟感」に魅力を見出し、実験的なプログラムを次々と展開した。



「踊る標的 vol.1」(巻上公一×松岡大ライブパフォーマンス)



「踊る標的 vol.2」(長井江理奈)



クロッキー会 (モデル: 松岡大)

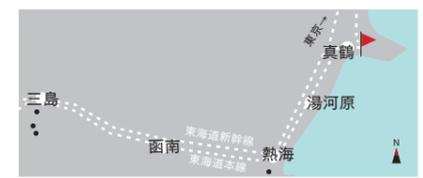


「みみを澄ませうたを響かせる」(小島ケイタニーラブ&ラブナイツ)

6 まちめぐりとダンスの出会いをコーディネート

真鶴まちなーれ 2017

神奈川県足柄下郡真鶴町



アートと交流を楽しむまちづくりアートプロジェクト「真鶴まちなーれ 2017」。企画協力を依頼されたスケラボは、ダンサー福留麻里を紹介。真鶴のまちに点在する美術作品をめぐるガイドツアーと、サイトスペシフィックな場所で踊ることを得意とするダンサーのパフォーマンスを組み合わせた作品「光る真鶴ダンスツアーとミニコンサート」となった。



光る真鶴ダンスツアー

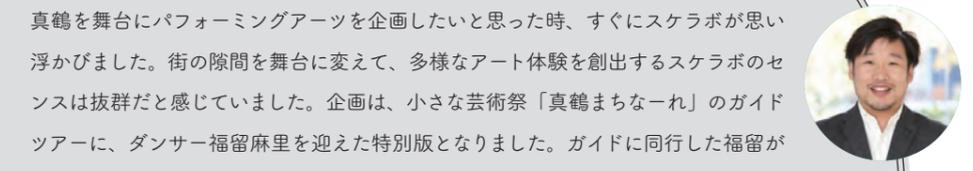
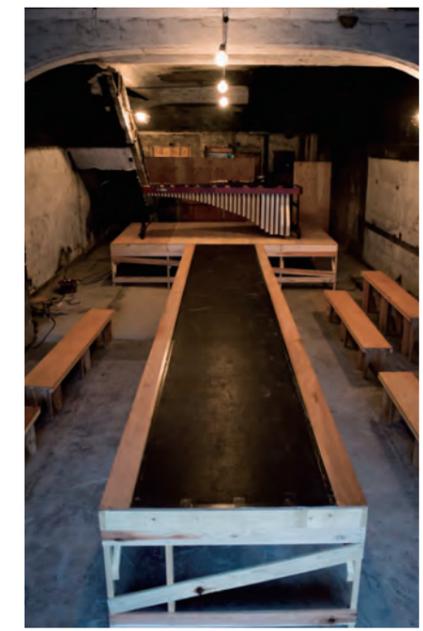


熱海の中に膨大に存在する空き家。ボロボロで全く価値がないように思われている物件も数多く存在しています。そんな場所がスケラボの手にかかると、とんでもなく魅力的なアート空間になる。そんなことが熱海の街なかでも起こりました。アートやダンスなどのパフォーマンスの力により、身近な空間の見え方が変わる。そして、それは街や暮らしの見え方も変えることになる。そんな瞬間に一人でも多くの人々が触れられるように、これから街の中にスケラボのフィールドがますます広がっていくことを期待しています。

市来広一郎 (いちき こういちろう) 株式会社 machimori 代表取締役 (会場を紹介し、スケラボと熱海を繋げた張本人)



「卯月 辻驛」(立川志ら乃)



真鶴を舞台にパフォーマンスを企画したいと思った時、すぐにスケラボが思い浮かびました。街の隙間を舞台に変えて、多様なアート体験を創出するスケラボのセンスは抜群だと感じていました。企画は、小さな芸術祭「真鶴まちなーれ」のガイドツアーに、ダンサー福留麻里を迎えた特別版となりました。ガイドに同行した福留がみせる息遣いや動きは、町の風景や時間の中で揺れながらまぎっていくようでした。

平井宏典 (ひらい ひろのり) 真鶴まちなーれディレクター



目指すもの スケラボが

北本 麻理
静岡県文化プログラム
プログラムコーディネーター

川上 大二郎
Scale Laboratory 代表

スケラボは2016年、17年と静岡県の文化プログラム事業に採択されているが、スケラボの担当として活動を見守り、時に助言する静岡県文化プログラムのプログラムコーディネーターが北本麻理氏である。

これまでパフォーマンスを軸に東北や関西で地域と芸術を繋ぐ活動を行って来た北本氏とスケラボ主宰の川上が、今年2月に開催したアートキャンプ「スケラボソーイング合宿」会場の沼津ラクーンで、スケラボのこれからと可能性について語り合った。

「対話と演出」の実践を通して 文化を醸成する

北本麻理（以下、北本） 2016年の静岡県文化プログラム・モデルプログラムの審査会場が初めての出会いでした。パフォーマンスをやりますということで、申請書類に「舞踏」のキーワードが既に入っていて興味が湧きました。それと白塗りの身体に着目した、舞踏手のデッサン会がとても面白いと思いました。

川上大二郎（以下、川上） 最初に見ていたイベントは2016年10月に沼津ラクーン8階で開催した「妄想会議」でした。

北本 ラクーンの内装されていない環境に、

空き家・空きスペースを使って賑やかにしたいという人が集まっている状況と、プレゼンの内容が、7割くらいパフォーマンスを取り入れていた感じがするんですね。そのようなことはこれまで他の地域で見た印象がなかったので、強い興味を持ちました。それと、話している内容が単なる妄想ではなく、とても具体性があったので、これを実現していくことになったら面白いだろうなと思いました。そういった人たちが集まるきっかけづくりという意味でもよかったですし、会議室の会議ではなく、照明やプレゼンの仕方といった設えもお洒落にしている、そういう感覚もすごくいいなと思いました。

川上 自分のやっていることを突き詰めていくと「対話と演出」なんだろうなと思っています。ダンサーの身体とお客さんとの対話であったり、こうやって話し合うこともそうです。今、世の中でも対話が欲されているような気がするし、僕らもプレゼンしていきたいという気持ちはありますね。

北本 演出と対話を並べていますが、対話に演出を持ち込むと有効だということですか？

川上 持ち込むというより2大テーマですね。今、対話がなくても成立してしまう世の中になっていて、若い子たちにとっては、対話というのがメールのやり取りであったりすると思います。でも、実際話してみるとどういう気持ちでその言葉を使っているかがわかるじゃないですか。そういう意味で直接の対話はすごく大切ななと考えています。演出とは、舞台作品を作り出す上で必須の力で、台本が伝えたいことを、観客の皆さんの五感に訴えてより素敵に、効果的に

表現する手段です。地域のイベントの演出力を高めたいということもあるし、「日常を演出する」なんて言葉もありますが、ちょっとカッコよくしましょ、きれいにしましょと、何事も演出してみると、人生が楽しくなるということを実践によって伝えていきたいという気持ちがあります。

北本 演出力を身につける大切さを提案することで、そこに集まる人たちに持ち帰ってもらいたいものは何ですか？

川上 まずは、「スケラボさんって魅せ方工夫してるな、こういうのいいな」と感じる人が増えて、僕らが大切にしていることへの理解が広まって欲しいです。そして長期的には、演出力は誰にでも、日々の中にもあって、少しの工夫で素敵になるもの、価値観が変わるものがあるということを知っていただきたいです。今日のソーイング講座でお客さんが作っていたブローチに対してチエ（行員）さんが「ちょっと向きを変えてみましょう」と言ったことで、「あ、そういう発想はなかった」という話が出てきたりすることは、「対話と演出」の上手い組み合わせの例かなと思っています。

僕は打ち上がっている花火そのものよりも、それを見ている人たちの楽しい顔が好きで舞台監督という仕事をやっているんですが、その意味で言えば、パフォーマンスに限らずデッサン会でもそうです。描いて、見せ合って、感想を言い合って楽しんでいる。何か難しい作品を理解できたというよりは、お互い作ったもの、見たものを評価しあえることが文化であって、誰かも分からないし何かも分からないけれど、とても訴えかけられるものがあるということが第一であって欲しいと思っています。



北本 それを少し違う言い方をすると、ものを作ったりものを見るのが他者を理解するためのコミュニケーションの手段となり、それについて話し合っ相手の感想を知ること、相手のことをより深く知ることができるといことがひとつにあるということですね。もう一つは、川上さんが、そこに居合わせた人たちが喜んでいるのを見るが好きであると。それはとてもいいことだと思います。

川上 それが根本にないと、来場者数でしか評価できなくなってしまうと思うんです。もちろん、多くの人に見ていただくのが目標ではあるのですが、来た人が自分なりに何かを持ち帰ったかどうかという方が大事なことと、そういう人が何かを見るときに指針みたいなのができる場になればいいと思います。平たく言うと、皆自分で考えようよというのがベースにあるんです。

活動を広げながら

地域の要望の受け皿になる

北本 これからスケラボをどのようにしていきたいですか？ 川上大二郎カンパニーにし

ていくのか、ディレクターズユニットにしていくのか。

川上 ディレクターズユニットですね。メンバーの本業は、アーティスト、写真家、イラストレーター、デザイナー、設計士など様々で、それぞれにプロフェッショナルな得意分野があるので、やりたいと言う人の声を拾っていききたい。まだ、最終的なジャッジは僕になってしまいうことが多くけれど、ちょっとずつみんな案を出してくれるようになってきています。今日やっているソーイング企画は（行員）チエさんと（住）麻紀さんの企画だし、アートキャンプのアートトークは住家のプロデュースだし、僕の手を離れ始めた企画もいくつかあるので、共存できている気はしています。

北本 転々とスペースを開拓して行くのと同じに、ここに行けばスケラボの人たちのやっていることがわかるというのがあってもいいかもね。

川上 静岡県の中中部と西部は、アートのことはここに相談すればいいという拠点や人物がいるんですね。静岡のスノドカフェの柚木さんやCCC（静岡市文化・クリエイティブ産業振興センター）、浜松の鴨江アートセンター、鈴木一郎太さんの「セミナールーム黒板とキッチン」とか。東部はそれが見えていなかったの、見えるようにしたいという思いは当初からありました。ただ、拠点があって、法人格をとって、予算の中で回していくような安定的な運営をスケラボがした方がいいのかは、まだ決めかねています。

北本 スケラボに関わった人の口コミで広がって行くのが理想的だと思いますが、広げ

て行くと同時に、誰かからの声を聞く窓口が可視化できるといいですね。そういうきっかけが「妄想会議」だとは思いますが、自分から積極的に話しかけられる人は少ないですね。その仕組みづくりができればいいのかな。

川上 そういう意味では、今一番ハブになっているのがチエさんで、今回のソーイングは地元の On Safari という服屋さんに声をかけて一緒にできたので、そこのお客様がいっぱい来てくれる状態だし。

北本 そうなるのが理想ですね。



川上 場所さえ貸してくれれば僕らはできるんだし、やりたいことを言ってくれば実現に向けて手を貸せます。来年度はこれまで作ってきた企画をベースに、「妄想会議」を定期的にやったり、学校や福祉施設なんかに出向いて、より声をかけてもらいたい状況を作っていくのが目標ですね。盲学校で「360° marimba」をやりたいんですよ。

北本 それはいいですね！ きっと私たちの想像以上の反応や感想が聞けるとおもいますよ。楽しみにしています。

[2018.2.18 沼津ラクーン6階にて]

北本麻理（きたもと・まり）
京都造形芸術大学舞台芸術研究センターでの公演制作担当を経て、舞鶴市文化事業団アートコーディネーターとして地域資源と芸術資源とを結びつけたワークショップ等を企画・運営。2012年からNPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワークで、東日本大震災被災地における文化芸術による復興事業『三陸国際芸術祭』『習いに行け！東北へ！』のプログラム・ディレクターを務めた。

川上大二郎（かわかみ・だいじろう）
Scale Laboratory 主宰。國學院大学在学中から舞台の裏方として働き始める。小劇場から大劇場まで、お笑いから日本舞踊まで、幅広いジャンルで舞台監督を務める。2012年に静岡県函南町に移住。静岡県内で参加した仕事としてはSPAC 招聘作品「よく生きる / 死ぬためのちょっとしたレッスン」「盲点たち」などがある。

Program List 2016.2-2018.3

スケラボアートキャンプ

食事や夜景とともに様々なジャンルのアートを
キャンプのように気軽に、自由を楽しむイベント。
(会場：沼津ラクーン)

◎ 第1回

2017年11月18日(土)～11月22日(水)

11/18,19 踊る標的

ゲスト：遠藤綾野(ダンサー)

11/18 アートトーク ゲスト：渡辺真也(インディ
ペンデントキュレーター・映像作家)『哀史奄美』
上映会&監督トーク

11/20～11/22 衣裳デザイナー千明さんと作る
チュニック



スケラボアートキャンプ

◎ 第2回

2017年12月15日(金)～12月16日(土)

12/15 待ち合わせは月の裏側 vol.2 ゲスト：樽
木栄一郎(ギターの弾き語り)、サノ ユカシ(ラ
イブペインティング)

12/16 踊る標的 ゲスト：奥野美和(ダンサー・
振付家・映像作家)

12/16 アートトーク ゲスト：若山満大(インディ
ペンデント・キュレーター・編集者)「名無しの写

真史」～日本の「アートフォト事始め」から「写
真報国」まで

◎ 第3回 テーマ「衣装」

2018年2月16日(金)～18日(日)

2/16 サノユカシのファブリックアート講座 講師：
サノユカシ(イラストレーター)

2/17-18 千明さんと作る春服と小物 講師：西川
千明(衣裳デザイナー)

2/18 アートトーク ゲスト：西川千明、小林英
治(編集者・ライター)「服から映画を観てみよう」

◎ 第4回 テーマ「演劇」

2018年3月17日(土)～18日(日)

3/17 加藤剛史仕事変えるってよ演劇祭② 河原
乞食：女子会。旗揚げ公演「解体されゆくアント
ニン・レーモンド建築 旧体育館の話」

3/18 演劇 ワークショップ×アンワークショップ
「演劇のできることで、できないたくさんなこと」
講師：川上大二郎(舞台監督・Scale Laboratory
主宰)

定期講座・ワークショップ

カフェの空き時間や閉店後の商店などを借りて行
う、アートとの距離を縮める講座。スケラボスタッ
フが各自の得意分野で講師やコーディネーター
を務める。

－ 2016 年度

◎ 南のデッサン会

2016年2月～2017年2月(計7回)

会場：熱海市内・三島市内

講師：南大介(お笑い芸人)

◎ 絵解きで美術史(読書会)

2016年4月～2017年4月(全10回)

会場：カフェ・うーるー(三島市)

コーディネート：住康平(美術家)

－ 2017 年度

◎ サノユカシのおえかきの時間ですよ!

(イラスト講座)

2017年11月～2018年3月(計5回)

会場：沼津ラクーン

講師：サノユカシ(イラストレーター)

◎ 南のデッサン会@沼津(デッサン講座)

2017年11月～2018年3月(計5回)

会場：沼津ラクーン

講師：南大介(お笑い芸人)

妄想会議

企画のアイデアや地域の「こうなったらいいな」
という妄想を集める公開プレゼン会。地域課題
を共有し、その先の実現に向けてスケラボが併
走するきっかけづくり。

－ 2016 年度

◎ ラクーン妄想会議

2016年10月26日 会場：沼津ラクーン

－ 2017 年度

◎ 妄想会議@熱海

2017年12月22日 会場：naedoco(熱海市)

特別公演(自主企画)

ジャンル横断と即興、世界で活躍するパフォー
マーと地元アーティストの掛け合わせ、様々な表
現に触れることを目的とした自主企画。

－ 2016 年度

◎ 踊る標的 vol.1(巻上公一×松岡大ライ ブパフォーマンスとクロッキー会)

2016年3月9日

会場：レンタルスペースツイキ(熱海市)

出演：巻上公一(音楽家)、松岡大(舞踏家)

クロッキー会講師：南大介(お笑い芸人)

◎ 踊る標的 vol.2

(長井江里奈×鈴木彩ライブパフォーマンス)

2016年3月10日

会場：レンタルスペースツイキ(熱海市)

出演：長井江里奈(ダンサー)、鈴木彩(打楽
器奏者)

◎ 二人 反応

(松岡大×鈴木彩セッション)

2016年6月9日

会場：レンタルスペースツイキ(熱海市)

出演：松岡大(舞踏家)、鈴木彩(打楽器奏者)

トークゲスト：市来広一郎(atamista 代表)

◎ 待ち合わせは月の裏側

(長井江里奈×鈴木彩ライブパフォーマンス)

2016年8月18日 会場：沼津ラクーン

出演：長井江里奈(ダンサー)、鈴木彩(打
楽器奏者)

◎ おっぱいの美術史

(ヌードデッサン&美術史講義)

2016年12月20日 会場：旧吉田温泉(沼津市)

ヌードデッサン講師：南大介(お笑い芸人)

トーク講師：伴田良輔(作家、美術家、写真家、
数学史研究家)、うすい奈美(美術史研究者)

◎ 白熱ダンス教室!

(親子向けダンスワークショップ&ダンス

教育についてのクロストーク)

2017年2月25日

会場：三島市民文化会館2階ロビー

ダンス講師：長井江里奈(ダンサー・演出家)、
鈴木綾香(ダンサー)

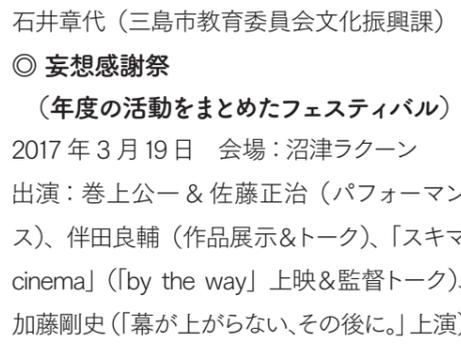
トークゲスト：長井江里奈、中西麻友(NPO
法人芸術家と子どもたち コーディネーター)、
石井章代(三島市教育委員会文化振興課)

◎ 妄想感謝祭

(年度の活動をまとめたフェスティバル)

2017年3月19日 会場：沼津ラクーン

出演：巻上公一 & 佐藤正治(パフォーマンス)、
伴田良輔(作品展示&トーク)、「スキマ
cinema」(「by the way」上映&監督トーク)、
加藤剛史(「幕が上がらない、その後に。」上演)



妄想感謝祭より「幕が上がらない。その後に」

－ 2017 年度

◎ 金・銀・惑星

(宇宙をテーマにした体験型アートイベント)

2017年4月2日～4月8日

会場：沼津ラクーン

参加作家：行貝写真館(劇場型移動式写真館)、
ちより(アーティスト)、はと(絵描き)、サノユカシ(イ
ラストレーター)、大谷まや(日本画家)、鈴木彩(パー
カッション)

◎ 踊る標的@沼津ラクーン(クロッキー会

及び舞踏とフラメンコギターの即興)

2017年6月23日 会場：沼津ラクーン

出演：松岡大(舞踏家)、上遠野忍(フラメ
ンコギタリスト)

◎ 360° Marimba for 6 players

(6台のマリンバ・6人の奏者によるアン

サンプル)

2018年1月7日 会場：沼津ラクーン

プロデューサー・奏者：鈴木彩

奏者：長坂 萌、渡邊千尋、篠崎陽子、三神
絵里子、原 順子

◎ EAST MEETS WEST MEETS MIDWEST

(電子音楽×コントラバス×ダンス×舞踏)

2018年1月25日 会場：沼津ラクーン

出演：松岡大(舞踏家)、入手杏奈(ダンサー)、
カール・ストーン(電子音楽)&パール・ア
レキサンダー(コントラバス)

特別公演(招致・共催企画)

一流の表現者たちを招いて行う企画。公演と共
にワークショップやアフタートークを開催する。

－ 2016 年度

◎ 卯月 辻囃(落語&音楽ライブ)

2016年4月5、6日

会場：レンタルスペースツイキ(熱海市)

出演：立川志ら乃(落語)、杉山卓(アコーディオン)

5日、上遠野忍(フラメンコギター)6日

◎ みみを澄ませうたを響かせる

(映像・音楽パフォーマンス)

2016年5月29日

会場：レンタルスペースツイキ(熱海市)

出演：小島ケイタニーラブ & ラブナイツ

◎ 長月辻噺～壮大な出囃子に関する噺家

の傾向と対策～(落語&音楽ライブ)

2016年9月17、18日 会場：沼津ラクーン

出演：立川志ら乃(落語)、杉山卓(アコーディオン)

17日、上遠野忍(フラメンコギター)18日



「シルク!シルク!!シルク!!!」

◎ シルク!シルク!!シルク!!!

(現代サーカスワークショップ&公演)

出演：くるくるシルク

2016年11月11日 会場：沼津ラクーン

◎ 初めてのヤットナ!

(狂言ワークショップ&公演)

2017年1月13日 会場：沼津ラクーン

出演：茂山童司、島田洋海(大蔵流狂言方)

－ 2017 年度

◎ TC アルプ 甲板劇「船長のいない船」

(演劇公演&ワークショップ)

2017年12月17日 会場：沼津ラクーン

出演：TC アルプ

共催：(一社)松本市芸術文化振興財団

協力事業

他団体の依頼で企画協力したもの。

－ 2016 年度

◎ 光る真鶴ダンスツアーとミニコンサート

2017年3月18日 会場：真鶴市内

(真鶴まちなーれ関連イベント)

出演：福留麻里(ダンサー)、アルプ(ミュー
ジシャン)、大崎清夏(詩人)

主催：真鶴まちなーれ実行委員会

－ 2017 年度

◎ ベアードビール×高嶋酒造 Talk Live

2017年12月23日 会場：沼津ラクーン

ゲスト：ブライアン・ベアード(ベアードビー
ル代表)、高嶋一孝(高嶋酒造代表取締役)、
小松浩二(REFs 代表)

主催：沼津ラクーン

Scale Laboratory Season 2016-2018

発行日 2018.3.24

発行 Scale Laboratory

編集 川上大二郎 (Scale Laboratory)

デザイン 住麻紀 (Scale Laboratory)

写真 行貝チエ (Scale Laboratory)

編集協力 小林英治

表紙写真 「妄想感謝祭」より長井江里奈パフォーマンス

<http://scalelabo.jp>

info@scalelabo.jp

©Scale Laboratory 2018

禁無断複製・無断転載

Special Thanks

静岡県文化プログラム推進委員会
沼津市観光戦略課・生涯学習課
三島市文化振興課
函南町

沼津ラクーン
吉田温泉
三島市民文化会館
#dilettantecafe & walts.
カフェ・うーるー
株式会社 machimori
NPO 法人 atamista
真鶴まちなーれ実行委員会
松本市芸術文化振興財団
まつもと市民芸術館

アクリクイショクドウ
ON Safari
笹間音響
スキマ cinema
立石珈琲焙煎工房
母力 Pj.
FUN Dish
沼津プロレス
ワイン・ラバース・ファクトリー

青木岳美
安藤誠
石井章代
池森秀明
磯村拓也
市来広一郎
市畑里花子
上松まり代
榎昭裕
江波戸健

大津英輔
大橋まゆみ
大橋康之
岡村秀一
小和田尚子
木村雅章
近藤正樹
坂田久美子
坂田裕貴
四宮浩司
四宮優子
鈴木勝矢
鈴木健司
鈴木亨
鈴木博子
高橋裕一郎
田中善久
中島清高
中村友海
中村康宏
原口佳子
平井宏典
藤井絵
古原綾乃
堀内祐二
丸山武彦
三浦あさ子
宮田公一
村上正和
めんぼーくん
望月康隆
山貫理恵
柚木康裕
吉田匡毅
米屋遊
渡邊尚志



Scale Laboratory

スケラボ